

平清水最奥部の大日堂（跡地）

2013(平成 25)年 6 月 26 日(水)午前中、「滝山郷土史研究会（以下「当会」という）」の 9 名が参加し、恥川源流域における八森・土坂方面への古道探査と大日堂跡地の探査を行いました。

その後引き続き、私が、関連する周辺の古道探査を行ってみたので、合わせてその概要を取り纏めて見ました。

【一つ目の疑問点】前述のとおり、当会で探査した後に、頂戴していた図—1 の古い地図を眺めている中で、地図記載の八森・土坂方面への古道と言われている Z ルートと、当会で実際歩いた Y ルートは違うのではないのか、と思うようになりました。つまり、Z ルートのつもりが、実際は Y ルートを歩いてしまったのです。

【二つ目の疑問点】また、図—1 にはないが、大日堂（跡）には、御堂があった当時ほどのルートを通ったのだろうかという問題意識が湧いて来ました。

そこで、上二つの疑問を解明したく同年 7 月 11 日(木)と 7 月 16 日(火)に現地に行って実査して来ました。その GPS 軌跡が図—2・3 のとおりです。探査の結果の大綱は次ページ以降のとおりです。

駐車場の a 地点は林道の行き止まりとなるので、そこまでは、車なり、あるいは歩いても誰でも行けませんが、そこから先は、出入り口（起点）には何の案内標識もない、目印もないので、案内人あるいは誘導者がいないと、先にはなかなか行けないと思います。（なお、今回、私が踏み込んで来たので歩くことは可能です。）

私は大日堂跡地には、今回初めて踏み入れました。杉植林の中の傾斜が緩んだ所に石垣らしきものもあり、2 段になっている平坦地が見られます。阿弥陀如来のキリクを刻した板碑と「大日堂跡地」と刻した標柱が建立されています。かつては、この地には修験者の住まいと道場などの堂宇・寺院があった事が窺われます。

踏査後の感想をつたない短歌に。

大日堂胎蔵界に鎮座して 命の滾りの源ぞあれ
伝え聞く大日堂の跡探し 藪を掻き分け御秘所に出合う

○ 一つ目の疑問点についての説明

八森・土坂への古道の真のルート（図-1のZ）は、当会で歩いたルート（図-1のY）では無く、図-2において、駐車場から沢筋を東進し、途中から90度向きを南に変えて通るAのルートではないかと思い、実際に歩いて見ると、所々に幅1m近くの踏み跡を確認出来ました。新しい作業道ではなく、長い間踏み固められた古い道という感じがしました。当会で歩いたルートで遭遇したような、あの崩落した急峻な（壁のような）所はまったくありませんでした。自然に傾斜が増して行くルートです。結果して図-1のZルートと一致します。

6月26日(水)当会の踏査で、車道から入った沢沿いの図-1 Yルートには踏み跡が確かにあります。

それらは作業か、山菜採りなどで人が入った道跡だと思います。

○ 二つ目の疑問点についての説明

前記八森・土坂へのルート上のc分岐点から、大日堂跡地に向けて直線的にBのルート歩いて見ました。一部踏み跡と思われるような所もありました。背丈の低い灌木（雑木）はあるが、密生していないので、樹木の繁茂期でも十分に歩ける状況にありました。平清水集落に繋がる同じ道を往復したのか、あるいは、八森と釈迦堂を繋ぐ道に連携していたのか、または、別の道と連絡が出来たのかは、山の中の現況からは想像が付かない状況でありました。なお、細部は次ページに記載しました。

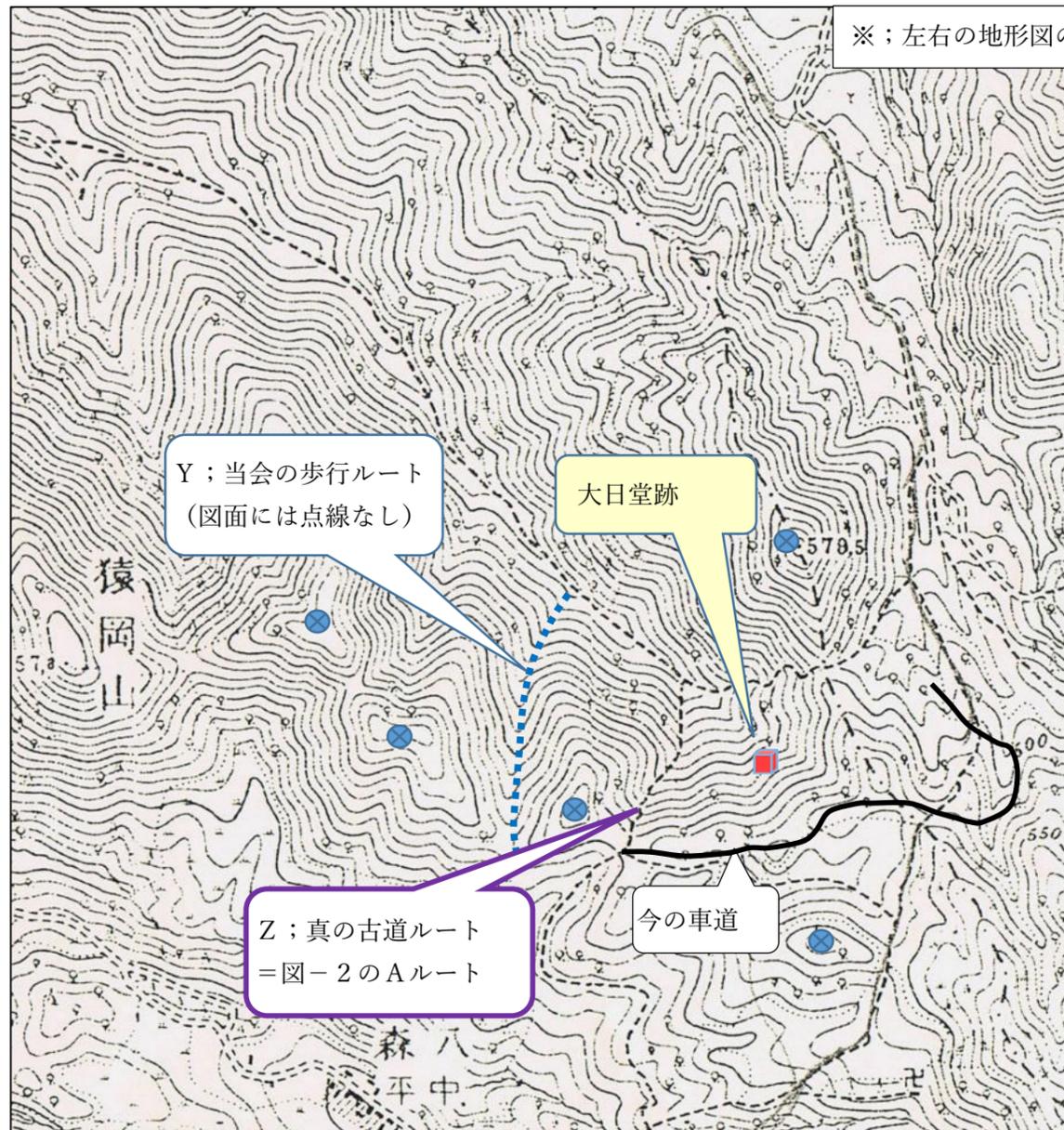


図-1 / 古い地図



図-2 / 今の地図

○ a 駐車場→b→c→i のルートには、古道、つまり、生活道として人々が往復(いきき)したと分かるような踏み跡がある。

○ また、このライン上には、近年の境界画定作業において目印とした赤テープと杭が所々にある。これは、境界を示すものとして打ったものとするれば、昔の古道筋は、官道でもあった事から、境界ラインの参考として見られているのではないか。

○ a→h→i のルートにあるような、急峻な所は無く、もしも、八森方面の i を目指すとすれば、a 駐車場→b→c→i のルートが自然的である。

○ 大日堂跡に至る c→d の間は、一部踏み跡と思われるような所もあった。背丈の低い灌木(雑木)はあるが、密生していないので、樹木の繁茂期でも十分に歩ける。

○ 林道に至る b→e の間は、作業道と思われるような道筋(一部踏み跡)が見られる。道筋には、灌木(雑木)もあまりなく、樹木の繁茂期でも十分に歩ける。

○ 林道に至る c→f の間は、踏み跡らしきものは、この度はまったく確認出来なかった。灌木(雑木)もあるが、背丈は高くなく、樹木の繁茂期でも歩ける。

ただし、f→g の間は、雑木が密生していて、普通は歩かない方が良い。今回は藪をかき分け何とか歩いて見た。

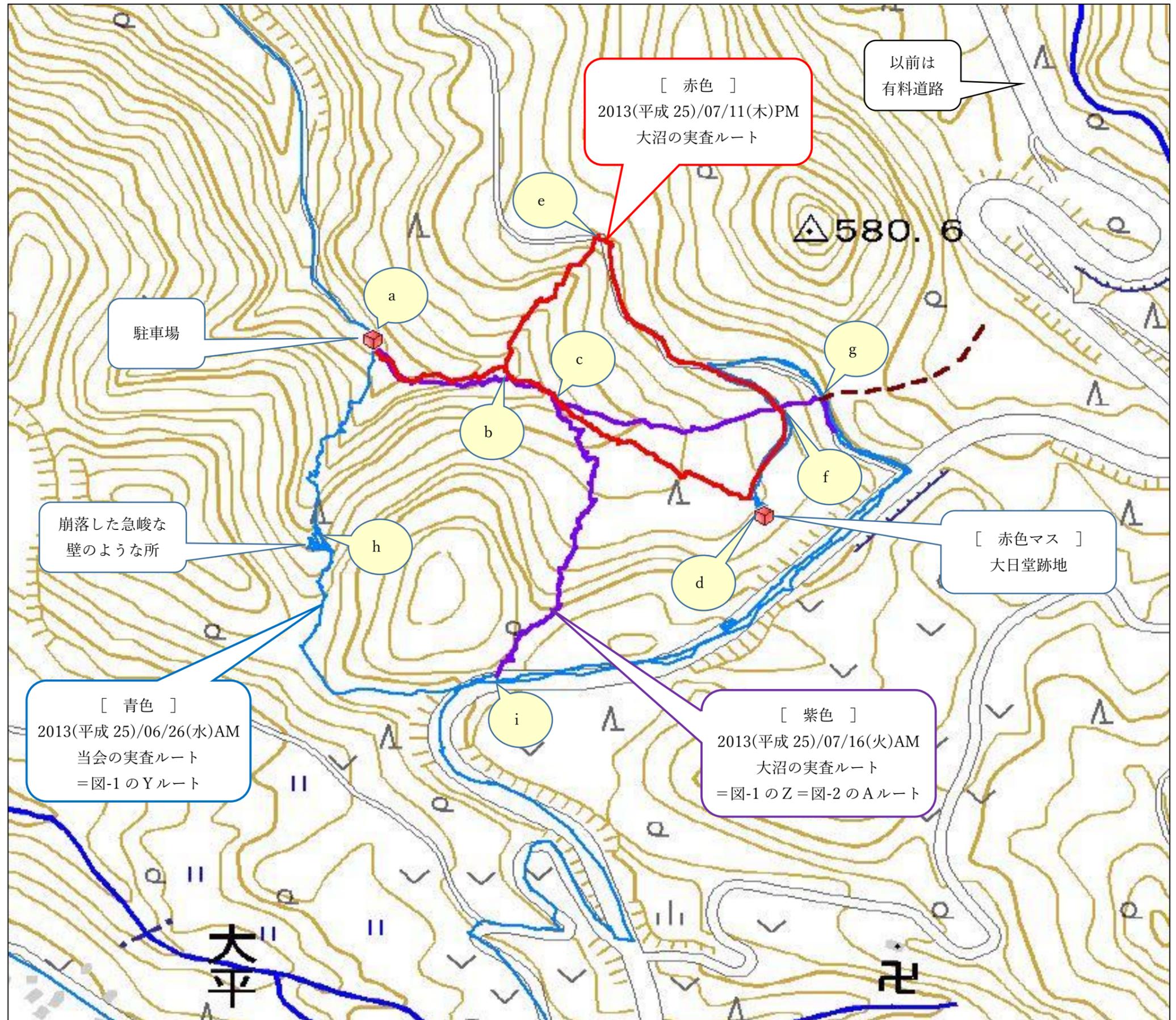


図-3 / 図-2 の拡大



図-4



図-5

- 2013(平成 25)年 6 月 26 日(水)午前中、当会で実査した時の様子です。図-4 は大日堂跡地の石塔(図-3 の d 地点)、図-5 は八森・土坂方面への古道ではないかとして歩いた中の崩落した壁のような急斜面(図-3 の h 地点)です。



図-6



図-7

- 2013(平成 25)年 7 月 16 日(火)、私が実査時のルート状況です。図-6 は舗装道路到達直前(200m くらい手前)の様子(図-3 の i 地点の北方直前)、図-7 は途中における踏み跡幅 1.2m 程古道状況(図-3 の c 地点と i 地点の間より c 地点側)です。

(end)